

希求文におけるモーダルな意味の広がり  
—主体が二人称、三人称の場合—

The Extent of Modal Meaning in Optative Sentences:  
The Case of Second-Person or Third-Person Sentences

宮 城 星 留  
MIYAGI, Seiryu

岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要  
第56号 2023年12月 抜刷  
Journal of Humanities and Social Sciences  
Okayama University Vol.56 2023

## 希求文におけるモーダルな意味の広がり

### —主体が二人称、三人称の場合—

宮城星留\*

#### 1 はじめに

希求文は「現実に対する話し手の欲求、希望、願いなどを述べ立てる」文であり、「ポテンシャルな（まだ実現していない）事象への志向を表す文」として命令文、依頼文、勧誘文とともに意志表示的な文に位置づけられる（宮崎2020：38）。下に挙げる例のような、二人称が主体となる希求文（以下、二人称の希求文）は、聞き手に対する働きかけ（依頼）として機能することがよく知られている（仁田1991、由井1995、グループ・ジャマシイ1998、日本語記述文法研究会2003等）。

・加賀がじっと彼の目を覗き込んできた。

「君が知っていることのすべてを話してほしい。三年前の事故も含めて」（麒麟の翼）

佐藤（1992）等で指摘されているように、「雪よ、どんどん降ってくれ」のような文はもはや依頼の意味・機能を果たしておらず、話し手の願いを表しており、希求文に移行している。希求文と依頼文（命令文）はモダリティ体系において、その通達機能で対立しながら、文法的条件の変更にしたがうモーダルな意味の相互交渉が観察される点で密接な関係にある（宮崎2007、2020）。

ただし、主体が一人称、一・二人称、二人称に制限される命令文、依頼文、勧誘文とは異なり、希求文には三人称が主体となる文（以下、三人称の希求文）もある<sup>1</sup>。次のようなものである。

・「やっぱりネットが普及してから自称うつ病は増えたよね。まるでそのほうがかっこいいみたいな書き方をしているやつもいるしさ」とぼくは今井に同調してみせた。

「本当に、本当にうつ病の人もいるのかもしれない。でも、それならばその苦しさや闘いとを書いてほしいよな。（略）」（プリズムの夏）

従来、三人称のシテホシイを考察対象とする研究はいくつかみられるものの、そのモーダルな意味に関する記述は十分でないと思われる。三人称の希求文には、上掲のようなもの以外に「悪役な

\* 岡山大学大学院社会文化科学研究科博士後期課程2年

<sup>1</sup> 本稿で用いる「三人称の希求文」という用語は、主体が人間であるような場合を指している。「彼の病気が早く治してほしい」のような人間以外の主体をとる希求文は、本稿の分析対象としない。

ら悪役らしく、堂々としてもらいたいものだ」のような〈理想〉を表す文がみられる。実際に用例観察を行うと、文法的条件にもとづくモーダルな意味の広がり認められ、「三人称の動作・活動に対する望みを表す」といった規定を与えて記述を終えることへの疑問が生じてくるのである。また、二人称の希求文にも「あなたには幸せでいてほしい」のように、聞き手への働きかけであるとは言えない場合がある。

以上の理由から、本稿では、従来の研究で既に取りあげられている二人称の希求文、三人称の希求文に注目し、それらのモーダルな意味の諸相の記述を行う。2では本稿の分析に関わる先行研究をみたくえで本稿の立場やアプローチについて述べる。3で本稿の調査対象について述べたのち、4で二人称の希求文、三人称の希求文のそれぞれのモーダルな意味の記述を行う。

## 2 本稿の立場

ここでは、本稿の分析に関わる先行研究に触れつつ、記述を行ううえでの本稿の立場および本稿のアプローチについて述べる。

まず、本稿で扱う希求文が希求文全体のどのような位置を占めるかについて述べる。奥田（1984：231-232）はまちのぞみ文<sup>2</sup>の下位タイプとして、大きく、話し手自身の動作に対する志向が差し出されている文（以下、《志向》を表す文）と、期待する出来事、理想とする出来事など、実現を望ましく思う出来事を言い表す文（以下、《期待》を表す文）の2つを認めている。《志向》を表す文が一人称文であるのに対し、《期待》を表す文にはそのような人称の制限はないということから、この奥田（1984）の分類は主体の人称に関する特徴にもとづく分類であると考えることができる。一方で、宮崎（2007、2020）、Narrog（2009）、須田（2010）等は主体の人称に加え、意志性にもとづいて希求文を特徴づける。これらの先行研究に従えば、本稿の対象とする二人称、三人称の希求文は《期待》を表す文に位置づけられることになる。

二人称の希求文の代表的な形式はシテホシイとシテモライタイである。これらを述語にする文は三人称の希求文にもなる。1で触れたが、シテホシイ、シテモライタイを述語にする二人称の希求文に働きかけ性が生じて命令・勧誘文へ接近することが既に指摘されている（奥田1986、宮崎2007等）。しかし、1で挙げたような「話してほしい」のような文に対して、「あなたには幸せでいてほしい」のような文に働きかけ性が生じないとすれば、主体である二人称にとって対象的内容が意志

<sup>2</sup> 奥田（1984）の言うまちのぞみ文は、本稿の希求文に対応する文のタイプである。ただし、奥田（1988：88-95）では「うん、いまなら、ちょっとおあいしてもいいな。」のようなシテモイイを述語にする文がまちのぞみ文に所属する可能性があるものとして扱われており、その外延は異なる可能性がある。また、奥田（1996a：303）では、希求文に「はなし手の、自分自身の動作にたいする欲求」を表すものと「第三者の、これからの動作の実現へのはなし手の期待」を表すものを認めている。それぞれ「酒が のみたい。」「もっと 外国語を まなびたい。」「あす 雨が ふれば いいなあ。」「おとうさんの 病気が はやく なおって ほしい。」のようなものである。このように、希求文は奥田の論においても揺れのみられる領域であることに注意を要する。

的にコントロールできるものかどうか二人称の希求文の記述において重要になると考えられる。

また、「話してほしい」のような文が依頼として機能していると言えるのに対し、「今伝えたことを肝に銘じてほしい」のような文は単なる依頼とは異なったニュアンスが読み取れる。佐藤 (1992: 120-125) は「思う」「こころえる」のような動詞をとって「注意を喚起したり、一定の心構えを要求することを目的とする」依頼文に忠告、はげましのニュアンスが生じると述べており、「このような意味的なニュアンスは、まず、述語となる動詞の語彙的な意味の抽象性にかかわっている」と指摘する。また、話し手に有益な動作の依頼を表す場合と異なり、「／動作の実現による恩恵を聞き手が受け取る／、／聞き手自身のためにその動作をもとめる／という場合に、《忠告》《はげまし》のニュアンスが前面に出る」という。これに従えば、述語動詞の語彙の意味のタイプや利益性にもとづいて二人称の希求文に生じるニュアンスを記述することができると考えられる。

さらに、高梨 (2020) はシテホシイが出現するジャンルとの関係からその使用実態を詳細に明らかにしている研究だが、次のようなことを指摘している。高梨 (2020: 46) によれば、以下のような日常会話における〈他者行為〉(本稿における三人称の希求文) の例には「単にその行為の実現への希望を表すというよりも、それが実現していないことに対する不満が強く感じられる」という。

・接着剤みたいな # 付いてた # うーん # まあ安いから仕方ないけどね # うーん # そうだよ # 匠の仕事してほしいよね # そんなのニトリに求めちゃだめだよ # うーん #

また、次のYahoo!知恵袋の例のように、〈依頼〉(本稿における二人称の希求文) には、相手にとって有益な行為の要求である勧めに近いものがあることを指摘している (高梨2020: 53)。

・Q: 小さなお子さんやお孫さんのいる方で、お勧めの絵本がありましたら、是非、教えてください。  
A: (中略) あとは定番ですが『ぐりとぐら』かな? 福音館書店の本は良い本が多いのでぜひ読んであげて欲しいですね♪

本稿では高梨 (2020) の指摘するこういった不満、勧めといったニュアンスを、二人称、三人称の希求文におけるモーダルな意味に関与するものであると考え、記述を進める際に注目する。

以上で述べたことから、本稿では、意志⇔無意志、具体⇔抽象といった対象的内容のタイプや不満、勧めといったニュアンスの有無に注目して記述を行う。なお、4で述べるように、実際にはこれらに加え、主体の意味的なタイプ (主体が個別具体的か、類か)、時間的限定の有無といった文法的条件がモーダルな意味に関わる。4では、このような観点からのモーダルな意味の記述を行う。

### 3 調査対象

記述に先立って、本稿の分析対象とするデータについて述べる。二人称、三人称の希求文には宮崎（2007）等が挙げる「立派な医者になりなさい」のようなものも含まれるが、本稿は比較的考察の進められていないと思われるシテホシイ、シテモライタイを述語にする文を考察対象とする。

本稿での記述には、筆者が文学作品中から手作業で収集した用例、およびBCCWJ（現代日本語書き言葉均衡コーパス）における用例を用いる。BCCWJの用例収集にはコーパス検索アプリケーション中納言を用い、表1のような条件で短単位検索を行った。検索対象として「出版・書籍（コア非コア）、図書館・書籍（非コア）」の「全てのジャンル」、「全期間」を指定した。

表1 中納言での検索条件

シテホシイ
前方共起条件1：キーから1語で「て」（語彙素） キー：文末から6語以内で「欲しい」（語彙素）
シテモライタイ
前方共起条件1：キーから2語で「て」（語彙素） 前方共起条件2：キーから1語で「貰う」（語彙素） キー：文末から6語以内で「たい」（語彙素）

本稿では、シテホシイ、シテモライタイを述語にする肯定の希求文に限定し、シテホシクナイ、シナイデホシイのような否定の希求文は分析対象としない。また、会話文、小説の地の文の両方に現れる用例を分析対象とするが、後者については内的独白としての文のみを分析対象とする（描出話法が用いられている文は分析対象としない）。このほか、「話してほしいんだ」のようにノダが文末に付加された例は分析対象から外すが、「話してほしいのですが」のようにノダガ、ノダケドが付加された例は分析対象とする。ダロウ、ラシイ、ヨウダといった認識的モダリティを表す形式が後続した例は分析対象から外すが、「悪役なら悪役らしく、潔く散ってほしいものだ」のようにモノダが後続しているものは分析対象とする。

### 4 二人称、三人称の希求文のモーダルな意味の記述

ここでは用例観察をもとに、二人称、三人称の希求文のモーダルな意味の記述を行う。4.1では二人称の希求文のモーダルな意味を、4.2では三人称の希求文のモーダルな意味を記述する。

#### 4. 1 二人称の希求文のモーダルな意味

シテホシイ、シテモライタイを述語にする二人称の希求文は、聞き手が主体となる事象に対する話し手の望みを述べ、聞き手へ伝える文である。二人称の希求文には、その対象的内容に、主体である二人称にとって意志的にコントロールできる動作・活動が差し出されている場合、意志的にコントロールできない事象が差し出されている場合がみられる。これらのうち、4.1.1で、意志的にコントロールできる動作・活動が文の対象的内容に差し出している場合について、4.1.2で、意志的にコントロールできない事象が文の対象的内容に差し出されている場合についてみていく。

##### 4. 1. 1 〈欲求〉

二人称の希求文には、主体である二人称が意志的にコントロールできる動作・活動を文の対象的内容にとるタイプの文がみられる。このような希求文が表すモーダルな意味を、本稿では〈欲求〉と規定しておく。

〈欲求〉を表す文は、はなしあいの中で聞き手へと伝えられるが、そうすることで希求文は間接的に依頼の機能をもつようになる。次に挙げる文のように、対象的内容としての動作・活動が未実現であり、時間的には未来に位置づけられるものが典型的である<sup>3</sup>。私的な間柄における依頼も、上司から部下に向けられるような公的な間柄での依頼もみられる。

・加賀がじっと彼の目を覗き込んできた。

「君が知っていることのすべてを話してほしい。三年前の事故も含めて」(再掲)

・「法廷でマスクをした君を見かけたって、忘れるわけがないって、あの子の方から言ってきた。ねえ、慎ちゃん。幸乃ちゃんに会わないか？ 彼女の心を溶かせるのは慎ちゃんしかいないと思うんだ。お願いだ。せめて手紙だけでも書いてほしい」(イノセント・デイズ)

・「覚えてない？ 明日からうちのチームの新しいマネージャーになるんだ、福永さん。彼の最初の仕事になる案件で、ゆ……東山さんにチーフになってもらおうと思って。今から見積もりを作ってもらいたい」(わたし、定時で帰ります。)

・「その(筆者注：リストラ対象者の)うちの一名は君なんだ」ああ。ああ……。 「正式な発表は週明けだが、いきなりではショックも大きいだろうと思って、先に報告させてもらった。君はまだ

<sup>3</sup> 下に挙げるはじめの例のように、時間的限定のある状態(存在)を対象的内容にとる場合もみられる。また、あとの例のように一般的に依頼とは呼べないと思われるものも、本稿ではこのタイプに含めておく。

・彩はICカードをバッグにしまい、「ところで、具合はいかがですか」と訊いた。もう十時を過ぎている。

「少しよくなったような気もするけど、もうしばらくいてほしい」(欲)

・ケイティはなにも考えられなくなった。これは夢なの？ 彼女はジャックの言葉を信じたかった。「愛しているんだ」ジャックはくりかえした。「結婚してほしい」(PB29\_00308)

若い。今までの経験を活かせる仕事もきっと見つかるさ。—それで、来週中には退職届を提出してもらいたい」(PB59\_00144)

文末にノダガ、ノダケドを伴った二人称の希求文も依頼として機能する(下の例)。グループ・ジャマシイ(1998)が指摘するように、これらは遠慮がちでやわらかな態度での依頼であると言える。特にあとの例のように、社会的な立場上、依頼をする際に遠慮や低姿勢であることが必要である聞き手に対しては、上に挙げたような言い切りは使用できず、ノダガ、ノダケドの付加が必要となる。

・十一月十五日日曜日の朝、珍しく朝食のテーブルで顔を合わせた陽一郎が、弟に言った。

「予定がなければ、後できみの車に乗せてもらいたいのだが」(氷雪の殺人)

・「見たんですか、それを」

(略)

「会社に持ってきたから、彼女」

「いまもありますか。見せてほしいんですが」(銀行狐)

依頼として機能する文には、次のように不満のニュアンスが読み取れる例もみられる。これは、話し手の欲求に沿わない聞き手の態度に対する不満であり、話し手はそのような態度をとる聞き手に対して時間的限定のある動作・活動に対する〈欲求〉を伝えることで、実行するよう働きかけている。

・「幼児ポルノは見ていて楽しかったか?」「仕方がなかったんだ」「楽しかったかどうかだけ答えてほしいな、ドジソンさん」「イエスだ」(LBb9\_00033)

・「気が済みましたか」糸川が訊いてきた。

「ええ、満足しました。ところで、ひとつ伺ってもいいですか」

「何ですか。早くしてほしいんですがね」(麒麟の翼)

次に挙げるようなサセテホシイ、サセテモライタイを述語にする文では、実質的な主体は一人称である。動作・活動に対する望みを通達することで、文はその望ましい動作・活動の実行を条件づ

ける許可を聞き手に要求するという機能を果たす<sup>4</sup>。

- ・壁ぎわの仕事機のスタンドの明りがついてた。そこに書きかけの原稿用紙がひろげられていた。クリップで留めてある原稿用紙の束もあった。「ほんとにいいのかな。仕事してたんだろう？」「気にしないで。二、三日前から『記憶販売人』が詰まっちゃって進んでないの。乗ってるときなら困るけど、そうじゃないから」「できてる分だけ読ませて欲しいな」(LB19\_00269)
- ・「まあわが政府の問題もあるがね、日本人は怨まれているから。で、どうかな、そろそろあなたの考えを聞かせてもらいたいんだが」(PB39\_00224)

次の文のように、時間の面で抽象化された動作・活動を対象的内容にとる二人称の希求文もみられる。また、時間的限定のない抽象的動作・活動を対象的内容にとっている場合もみられる。

- ・「以後君とは絶交だ。一切口を利かないから、そのつもりでいてくれ」君がまた答えた。「君がそんなに怒っているのなら、仕方がないが、もしそばにだれかがいるようなときは、以前のように親しく口を利いてほしい」(PB49\_00165)
- ・「でも自分でそんなに気になるんだったら、何かいい化粧品とか買えば？ すっごく高いブランド物とかは事前にちょっと相談してほしいけど」(ラブコメ今昔)
- ・「今夜はどうして家に来たんだ！」俺は車を出すなり怒鳴った。「どういうつもりなんだ！」美佐子は肩をすくめた。  
「一度、あなたの奥さんを見てみたかったの」  
(略)  
「今後はやめてもらいたい」(幸福な生活)
- ・「いまからそうかたくなっては、つかれてしまうぞ。ところで、テウレシコルはモナシリをどう思う？」庄太夫はしずかにかいをうごかしながら、テウレシコルの緊張をほぐそうとした。「どうって、その…。」(略)「心やさしいメノコ(娘)だ。たいせつにしてやってほしい。モナシリ

<sup>4</sup> ただし、次の例のように、話し手が自らの動作・活動を直後に行うことの断り・予告になっているものもみられる(ノダガ、ノダケドは後続しない)。宮崎(2007)では、サセロ、サセテクレを述語にする文にこれと同様の機能があることが既に指摘されている。

- ・「でもそれだと」  
「雇われ社長として、いいように使われちゃうってか？」  
「いえ、べつにそういうわけじゃ」  
「金はだすが口はださん！ それは保証する。出資金さえきっちり回収できるのであれば、あとはもう、すべて須河内くんの意志で決断して、須河内くんのリーダーシップで統率してもらえばそれでいい。いわば完全なる独立採算事業としてやってもらうわけだ。ただ、ひとつだけ条件をつけさせてもらいたい。独立事業ではあるけど、須河内くんの会社には将来的にもずっと、フォルテ・コーポレーション・グループの会社でいてもらう。それさえ確約してもらえば、ほかには、なにも足枷はつけない。これだけは確約する」(極楽カンパニー)

もテウレシコルのこと、すきらしいな。わたしにはそう見える。」(LBbn\_00030)

・「誰も悪くなんてありませんよ」

「いいや違う。僕のせいだ。血を止めようとしたんだ。信じてほしい。なのに次から次から……ルート  
トの顔は青ざめて……今にも息が止まるんじゃないかと……」(博士の愛した数式)

このような時間的限定のない聞き手の動作・活動に対する〈欲求〉を述べる文にも、不満のニュアンスを読み取れる例がみられる<sup>5</sup>。

・「何言ってるの。復帰したばっかだからこそバリバリやらなきゃ。子供は旦那に任せときゃいいの。  
残業だってガンガンやるよ」

「ええと、では、しばらくは、実働時間、以前の三分の二くらいですかね」

聞かなかったふりをして、次へ行こうとする結衣の肩を、賤ヶ岳はガシッと攔んだ。

「待ちな、東山。子持ちだからって情けは無用だよ。私は子供を理由に遅刻や早退なんか絶対しない。他の社員と同等に扱ってほしいね」(わたし、定時で帰ります。)

・「屋号をいわずに、名前を呼んでくださいよ」「でも、佐太郎さんとは呼びにくいんですよ。どうしても旦那さんになっちゃう」あかねもつられて微笑った。「旦那はつらいなあ。おれは佐太郎さんとか、佐太さんとか呼んでもらいたいんだが」(PB59\_00430)

・笠井はタバコに火を点けた。「それで、うちの従業員が注意したら、いきなり殴りつけてきたんですよ」

「馬鹿馬鹿しい」と私は言った。「作り話もいい加減にしてもらいたい。第一、家内はパチンコなどしたことがないんだから。それに男を殴るなんて」(幸福な生活)

ここまでは主として依頼として機能している例を挙げたが、次に挙げるのは忠告のニュアンスをもつタイプの文である。この場合、述語動詞に「肝に銘じる」「知っておく」といった抽象的な動作・活動をとるが、話し手はそのような動作・活動の具体的な時間における成立を望んでいるわけではなく、時間的限定のない心構えを要求している。

<sup>5</sup> 次のようなものになると、そもそも、対象的内容としての動作・活動の現実世界における実現が想定されていない。このような文は聞き手に対する非難として用いられている。

・——駆け込むようにトイレに行った君の行為は、十分に誤解を招くものだよ。

——だけど、あなたが勘違いしたのは事実でしょう？ 私は、ひと言もホットなんて口にしてないんだから。

——僕の勘違い？ せめて、気遣いと言ってほしいな。(君が悪い)

・「なにを脅しのネタに使われたのか知らないけど、自業自得だね」

行天はすげない態度だ。「ほいほい依頼を引き受けるなんて、ほんとバカだ。仕事を手伝うこっちの身にもなってほしい」(まほろ駅前狂騒曲)

- ・「いまさら遅すぎたのかもしれない。盗人たけだけしいと非難されるかもしれない。それでも、せっかくいまから新しくはじめることなんだ、あの失敗だけは繰り返したくないじゃないか。今後の進行については基本的におまえにまかせるが、しかし、あの青臭い企業理念だけは、どうか忘れないでいてほしい。青臭いやりかたを笑ってはいけないんだと肝に銘じてほしい」(極楽カンパニー)
- ・「兄が絵の勉強のために向こうに渡ったのは六年前です。最初は二年で帰ってくる予定でした。でも兄はいつまで経っても帰ってきませんでした。送られてくる手紙には、『帰らないと思ってほしい』と書いてありました。(略)」(眠りの森)
- ・一年生の多くが早々に挫折するのは、練習の厳しさに加えてモチベーションの維持が難しいということもあった。というのも日本アマチュアボクシング連盟の規約で、ボクシングを始めて一年間は試合をしてはならないと定められているからだ。理由は、危険防止のためだった。(略)
- 「だから、君も一年間は試合に出られないということを知っておいてほしい」(ボックス！(上))

次に挙げるもののうち最初の例は、主体である聞き手にとって有益な動作である。したがって、これは依頼というより、勧めに近いとみるべきだろう。また、あとに挙げる例は聞き手に対する許可のようなニュアンスが含まれている。話し手にとって有益な動作に対する依頼ではないため、遠慮や姿勢の低さは必要なく、ノダガ、ノダケドの後続はみられない。

- ・男が入ってきた。(略)
- 彼が我々を歓迎していないことは明らかだ。しかしそれでも、彼はまず、英語でこう言った。「ようこそ。楽にして欲しい」(満願)
- ・「やれやれ、紺藤さん、あんたは本当にできた人だな。これまで僕をさんざん助けてくれただけでなく、こうしてちゃんと恩返しのお機会まで作ってくれると言うんだから。なんでも言って欲しい、できる限りのことはするよ」(掟上今日子の備忘録)

#### 4. 1. 2 〈願ひ〉

二人称の希求文には、主体である二人称にとって意志的にコントロールできない事象が対象的内容として差し出されているタイプのものがある。

希求文がそのような対象的内容をとる場合、話し手は聞き手へ実行を働きかけることはできず、単に〈願ひ〉を述べるに留まる。依頼や忠告といった要求に繋がらないという点を重視し、本稿では、このような二人称の希求文は〈欲求〉ではなく〈願ひ〉というモーダルな意味をもつと考える。

次のような文である。

- ・「(略) 最後に会ったときにわれわれがおまえにいったことは、どうか忘れてほしい。これからほんとうのターゲットをおまえに教えよう。この写真を見てくれ。それからこれと、そしてこれだ」(LBa9\_00114)
- ・私の荒涼とした気持ちを感じさせるような激しい雨音を聞きながら、「事業倒産」を覚悟した私は、これから先の責任は何とかするから、もう別れよう、そして君だけでも自由になって生きてほしい。一緒になって三十五年、本当によくついてきてくれました。苦労ばかりをさせてきた後悔を詫びながらこれを区切りにしようと言ったとき、一人でエエカッコウするなんて、あんたは卑怯だとまた私の胸を強く叩きましたネ。(PB19\_00302)
- ・「でもね、雅人さんは全力でわたしたちの秘密を守らなくちゃダメだよ」  
いわれなくても、わかっていた。だが、雅人はきいてみる。  
「どうして」  
「わたしは雅人さんから大切なものを奪いたくないの。今のままずっとしあわせでいてほしい。それはもちろんわたしとのこともふくめてだけどね」(夜の桃)

次の例のように、不満のニュアンスが生じている〈願い〉の例もみられる。

- ・「演出やるつもりでいるほくがお世辞言ってどうするの。思ったより科白に軽みがあるし、テンポもいいよ。読みながらどんどん舞台のイメージが浮かんでくる」「ほんとならうれしいわ」「自信を持ってもらいたいなあ」(LB19\_00269)

以上、4.1では、二人称の希求文のモーダルな意味の記述を行った。本稿では、二人称の希求文のモーダルな意味として〈欲求〉と〈願い〉を区別した。これは、主体である二人称にとって意志的にコントロールできる可能かどうか、それによって働きかけ性が生じるかどうかという観点からの区別である。主体である二人称にとって意志的にコントロールできる動作・活動をとる場合、〈欲求〉になるとし、具体的な動作・活動を対象的内容にとる場合から抽象的動作・活動をとる場合を連続的に示した。また、従来指摘されている依頼の機能のほかに、不満、忠告、勧めといったニュアンスを記述した。主要な点を表にまとめると、表2ようになる。

表2 二人称の希求文のモーダルな意味

モーダルな意味		対象的内容のタイプ	
〈欲求〉	依頼	主体にとって 意志的にコン トロール可能	時間的限定のある未実現の未来の具体的な動作・活動 時間の面で抽象化された動作・活動 時間的限定のない抽象的な動作・活動
	忠告		時間的限定のない抽象的な動作・活動
〈願い〉		主体にとって意志的にコントロール不可能	

#### 4. 2 三人称の希求文のモーダルな意味

シテホシイ、シテモライタイを述語にする三人称の希求文は、聞き手以外の他者が主体となる事象に対する話し手の望みを述べる文である。したがって当然ながらはなしあいにも現れるだけでなく、小説の地の文の中の内的独白にも現れうる。はなしあいで用いられれば聞き手へ望みが通達されるが、一部を除いて二人称の希求文のような働きかけの機能は生じない。三人称の希求文が二人称の希求文と大きく異なるのはこの働きかけ性においてである。

三人称の希求文においては、二人称の希求文にみられる〈欲求〉と〈願い〉の違いは重要ではなくなる。二人称の希求文に働きかけ性が生じる場合、話し手が聞き手に直接働きかけて望ましい未来の現実をつくり出そうとする点で積極的な欲求になるのに対し、三人称の希求文においては、三人称者にとって意志的にコントロール可能な動作をとる場合もそうでない場合も、主体である三人称者に対して働きかけることができないという点で変わらないからである。したがって、三人称の希求文は、基本的に、話し手にとって意志的にコントロールすることのできない事象に対する、単なる〈期待〉をモーダルな意味として表すということになる。この場合、希求文は単に望ましく思う事象の実現を待ち望む、受け身的な話し手の態度を表現する。

ただし、三人称の希求文は、単なる〈期待〉というモーダルな意味を表すだけでなく、主体の意味的なタイプや時間的限定の有無と相関した意味の広がりをもつ。ここでは、単なる〈期待〉を表す文のさまざまなタイプについてみたあと、〈理想〉を表す文、さらに〈価値判断〉の文へと接近している例の順に記述を進める。4.2.1で単なる〈期待〉を表す文、4.2.2で〈理想〉を表す文についてみていく。

##### 4. 2. 1 単なる〈期待〉

最初に、単なる〈期待〉を表す文についてみていく。このタイプの文においては、主体は特定の人物などといった個別具体的なものになる。対象的内容に関しては、主体である三人称者にとって意志的にコントロールできる事象をとる場合からそうでない場合までみられる。また、時間的限定のある具体的な動作・活動である場合からそうでない場合までみられる。しかし、いずれも未実現

の事象あるいはポテンシャルな事象が対象的内容となる。このタイプの文はこのような事象に対する話し手（内的独白を行う人物含む）の〈期待〉を表す。

まずは、時間的限定のある未実現の具体的な動作・活動を対象的内容にとっての例を挙げる。三番目の例のように不満のニュアンスが読み取れる例、最後の例のように二人称の希求文の〈願い〉に対応する例もみられる。

- ・確かガーゴイルは雅臣の家にはいるはず。早く帰ってきて欲しい。 (LBs9\_00153)
- ・「誰だって、人の終わりぐらい簡単にイメージできるわよ。それに、そんな予告がいつもいつも当たるわけじゃないでしょう」  
「武田君の予想が外れるかもってことでしょうか？」  
そうだったら、ありがたい。ジュリエ青柳にそう断言してもらいたい。 (強運の持ち主)
- ・「はい、午後八時解散を目指しましょう！」  
元気よく返事をする、坂本先生に睨まれた。のんびりコーヒーを飲んでいる暇があるのなら、さっさと採点を始めてほしい。 毎年、ダントツでビリなのは英語チームなのだから。(高校入試)
- ・耀子は南野の誠実そうな顔を思い浮かべた。  
「一年後に入ってきた後輩たちにも優しくてね。みんなに好かれてますわ」  
「勝ってほしいですね」(ボックス！(上))

三人称者に対する直接的な働きかけはありえないものの、次の例のように、聞き手に対して間接的に働きかけを行う例がみられる。話し手は、〈期待〉を聞き手に対して通達することで、対象的内容としての動作・活動の実現に向けて対処するよう、聞き手に働きかけている。

- ・「ママにちょっと時間を割いてもらいたいたんだが…」「わかりました…じゃあ、こちらに…」黒服は二人を同じ地下にある事務室に案内した。(LBI9\_00201)
- ・「いま、お前さんの噂をしていたんだよ。おふくろさんが恋愛中だって？ けっこうなことじゃないか」(略)「いまや高齢化社会が到来しつつある。老人の恋愛や結婚は、大いに増えるにちがいない。志郎ちゃんのおふくろさんは、さしずめ先駆者だぞ。ぜひ、次号の特集に協力してもらいたい」(LBh9\_00078)

次に挙げるのは、時間的限定のない状態や、時間の面で抽象化された動作・活動を対象的内容に

とる例である。最後の例のように、不満のニュアンスが読み取れるものもある<sup>6</sup>。

・『ありがとう、ごめんなさい、好き、嫌い、愛してる』

大人になってもそれを素直に表現できる人はたぶん少ない。なんでだろう？ それに比べて拓人や大輔は素直だ。いつまでも今のままでいてほしい。(トイレのピエタ)

・「私と紫乃の関係は、近過ぎてたまに苦しい時がある。不健全だよ。だけど、真紀ちゃんと私は真逆。私はとても仲良くしたい。好きな男の子について恋愛相談したいし、されたい。困ったことがあれば助けを求めて欲しい。けれど、真紀ちゃんは遠慮する。(略)」(LBt9\_00176)

・「俺はなあ、星よ」

カップを置き、飯島は慎重に切りだした。「組長の大事なお孫さんに、できることならうまくて安全な野菜を食ってほしいと思ってる。だがな、HHFAの幹部のやりかたが、どうにも解せん。野菜を作ってるやつらが、どうして安易にヤクザと接触を持つとうとする？(略)」(まほろ駅前狂騒曲)

・「そうだ。宮部郵船は日本では一、二を争う大手の郵船会社なんだとさ。あんなバカ娘でも、令嬢ってわけだ」「はた迷惑な令嬢だ。もうちょっと常識を身に付けて欲しいな」(LBp9\_00032)

#### 4. 2. 2 〈理想〉

単なる〈期待〉を表す文にも、「さっさと採点を始めてほしい」のように不満のニュアンスが読み取れる例はみられる。しかし、ここでみる三人称の希求文が表すのは何らかのかたちで常に話し手の不満が関わるような望みである。

<sup>6</sup> 次に挙げる例のように、現実世界における実現が想定されていない動作・活動を対象的内容にとる場合もある。はじめの例のように三人称者に対する不満の表出に用いられるものや、あとの例のように夢想を表すものがみられる。

・「日本橋の中央には麒麟像が飾られている。翼のある麒麟だ。青柳さんは、その像に寄りかかったままで動かなくなった。それを近くにいた警官が発見したんだ。知ってると思うけど、刺された場所はもっと離れたところだ。なぜ青柳さんがそんなところまで移動したのかは、今もまだわからない」(略)

「まあ、そんなことはどうでもいいけどさ、同じ殺されるにしても、残った人間に迷惑がかからないようにしてもらいたいよ」(麒麟の翼)

・「戸田君、日本髪似合いそうだよね」

梨香が真面目な顔で言った。

「彫り深いし、肌綺麗だし、化粧映えしそう。うん、当然、芸名はひらがなで『しのぶ』だな」

忍は目をぱちくりさせた。

「なんでそういう話になんの？」

「それでさ、ハンカチの端っこなんか噛んで、キーッ、って言ってほしい」(夜のピクニック)

次に挙げる例では、モノダが後続している希求文に不満のニュアンスが生じている<sup>7</sup>。

- ・煙草の煙をたなびかせ、行天がベランダから居間へやってきた。多田はポケットに常備していた携帯灰皿を出し、行天の指さきから離れた煙草を受け止める。吸うなら、後始末のこともちゃんと考えてほしいものだ。(まほろ駅前狂騒曲)
- ・「でもなあ、図書館って、インケンだよな。ちよっとくらい、見逃してもらいたいもんだよな」「言える」「あんだけ部屋があるんだから、ひとつくらい騒いでもいい部屋ってあってもよさそうなもんだよな」「そうそう、集会所みたいなの」「まったく、オレたちや、どこで勉強すりゃいいってえ〜の?」「う〜ん。…やっぱり、自分んちしかないんじゃない?」「なあッ! まったく、東京の住宅事情でもんを考えると欲しいもんだよな」(LBe9\_00072)
- ・「あれ? 丸バツは訂正されてるのに、点数はそのままだ」  
宮下先生が設問の点数を書き直し、トータルの点数も変更した。春山先生、小西先生の二人が見落としたことになる。他人の粗探しをする前に、自分の役割を全うしてもらいたいものだ。(高校入試)

須田(2009: 108-114)によれば、モダリティ形式としてのモノダには「どうしてそんな悪戯するんだい。女の児は女の児らしくするもんだ」のように、「話し手の立場から、話し手の価値観や世界観にみちびかれて、とりむすばれる、主語(あるいは「は」でとりたてられた文の成分)のさししめすものと述語のさししめすものとのあいだの必然的な関係」を表す場合があるという。須田(2009)はモノダの表すこの意味を理想と呼ぶが、これは「話し手が現実のなかに確認した、個別的なものや、世間や他の人々のグループによる一般化などとの矛盾、ぶつかりあいから生じる」とする。

人間が自らにとって望ましくない現実を認識した際に生じる感情・評価が不満であるとすれば、不満のニュアンスをもつ希求文に理想を表す場合があっても不思議ではない。本稿では、上掲の例が表すような希求文のモーダルな意味を〈理想〉と規定しておく。

このタイプの希求文が表す〈理想〉は、話し手の価値観にもとづき、意識のなかに潜在している望みである。したがって、対象的内容には時間的限定のない事象をとり、以下に挙げるように主体が「子ども」「男」のような類である場合が典型的である。ただし、以下のような類に対する〈理想〉

<sup>7</sup> 次のようにモノダが後続していても不満のニュアンスがない例もみられる。

- ・自分の作った料理が香具矢の体内に入り、香具矢の血肉となるのだと思うと、馬締は思わず正座のまま身を乗りだし、食事をする香具矢を見つめてしまうのが常だった。  
そんな俺を、気味悪がらずにいてほしいものだが。そう願いつつ、馬締は書棚のまえに立った。(舟を編む)

においても、文脈上、現実に対する何らかの不満が発話の前提・動機になっている点に注意を要する。

- ・ 幼児が、「でもね、人間は森林ハカイしているの。森林ハカイって、なに？ 説明読んでも、よくわからない」と応じた。「そんなことも書いてあったの？ 子どもの本に？」「おばあちゃんは年寄りだから知らないでしょ。森林ハカイって知ってる？ 見せてあげる」彼が子ども用の地球の図鑑をかかえてきた。私の心は責められる。反発する。地球環境問題なんぞ、くそくらえとばかりに子どもは生きてほしい。(LBi9\_00061)
- ・ ファミリー・レストランでも飲みものしか注文しなくて、だまりこくったまま窓の外を見つめていたり。電車の中で開かない方のドア近くに、ぴったりくっついて一言も会話を交わさず、見つめ合っている二人、とか。若いとまわりのことが何にも見えなくなっちゃうんだな。お酒も飲まずによくこんなことできるよって思うけど、でも私は酔った上で口説いたり口説かれたりというのは、どこかフェアでないような気がする。酒の上でのことだから…と逃げ道を作っているように見える。そんなことしらふでできるかよ、と言われそうだけど、やっぱり男だったら堂々とお酒抜きで挑戦してほしい。(たとえ、思いつめてる滑稽なカップルになっても)(LBg9\_00231)
- ・ 安吾がしょっ中語っている言葉だが、「私は女がタスキをかけるのは好きではない。ハタキをかける姿などは、そんなもの見るぐらいなら、ロクロ首の見世物を見に行く方がまだましだと思っている。部屋のゴミが一寸の厚さにつもっても、女がそれを掃くよりは、ゴミの中に坐っていて欲しいと私は思う」(PB39\_00274)

以下のように、主体が類となっている場合にも、不満のニュアンスが明らかである例がみられる<sup>8</sup>。

- ・ 「やっぱりネットが普及してから自称うつ病は増えたよね。まるでそのほうがかっこいいみたいな書き方をしているやつもいるしさ」とぼくは今井に同調してみた。

---

<sup>8</sup> ここでは「四輪駆動の車」という主体に有生性があると判断し、本稿の考察対象に含めているが、次に挙げるような文と近い。〈理想〉を表す場合、人を主体にする希求文と、人以外を主体とする希求文を区別する必然性はないのかもしれないが、この部分に関するより深い考察は今後の課題としたい。

- ・ そして二人を結婚させない歌舞伎界は、「女性蔑視で横暴」ということになったらしいのだ。が、私はマスコミの人たちに聞きたいのだが、歌舞伎界を自分たちのわかりやすいレベルまでひき下げて、いったい何が楽しいというのだろうか。私は観客のひとりとして、男女同権でできたりも何もかも消え、すっかり風通しのよくなった歌舞伎など観たくない。梨園という内実はよくわからぬが、たまたま魅力的なものが存在していて欲しいと思う。劇的な場所から本物の劇が生まれる。歌舞伎というものはそういうものであって欲しい。(LBm9\_00080)

「本当に、本当にうつ病の人もいるのかもしれない。でも、それならばその苦しさと闘いを書いてほしいよな。」(略) (再掲)

- ・ウインカーを点滅させてアクセルを踏み込むと駆動輪が路面の上を空回りするのが分かった。一台の車を追い抜くのにふだんの倍以上も時間がかかりヒヤヒヤさせられる。結局空港へ着くまで六台の車を追い抜く。そのうちの一台は四輪駆動の車。ボクの車は前輪駆動の小さな車だが、四輪駆動の車は四輪駆動らしく走ってもらいたい!! (LBm9\_00033)

最初に挙げた「ちゃんと考えてほしいものだ」のような例は、類に対する〈理想〉が個別具体的な主体に対する不満によって意識化されたものだろう<sup>9</sup>。したがって、次のように現実世界における主体が二人称になっている例もみられる。

- ・「どうだ、串刺しにされた気分は？」大男が、わざと額に銃の先端を突き出す。轟木は、目を見開いた。「怯えるとは、おまえらしくないな。悪党なら悪党らしく、最後まで堂々としてほしいもんだ」(LBm9\_00243)
- ・日本を代表する外食産業の実態がこういうことですか？ 海外進出へ貪欲に手を伸ばすためには、違法な賄賂を使うことも厭わないのですか？ 海外ではこういうのが当たり前だ、という言い訳は通用しません。日本を代表する企業ならば、高い倫理観を持ってビジネスをしてもらいたいものです。(砂の家)

最後に次のような例の存在を指摘しておきたい。これは「そのテクニックには伝授してもらっただけの価値がある」という〈価値判断〉に近い意味を表しているように思われる。〈理想〉を表す文からの派生であると言えるかは検討を要するが、本稿ではここに入れておく。

- ・「しかし、おまえにそんな相手がいたなんて知らなかったなあ。全然気付かなかった」(略)  
「用心はしてた。彼女を最初に紹介した友達には、会ってることを知られたくなかったから、目には気を遣ったよ」  
「ふうん。そのテクニックは伝授してほしいな」(夜のピクニック)

<sup>9</sup> モノダではなくノニが後続している〈理想〉の例もみられる。

- ・吉岡がこんなにしょげてミもフタもなく、涙を見せたりされると、あぐりはどうしていいかわからない。吉岡はしれしれと無邪気に(美人やで)と妻のことを自慢するような男であってほしかった。殺したろかしらんと憎らしくせに、どこか憎めない、その無神経な無邪気さに、(しゃアないな)とこっちが思わされてしまう、そういう男、つるつるしれしれとした男であってほしいのに。(LBb9\_00064)

以上、4.2では、三人称の希求文のモーダルな意味の記述を行った。本稿では、三人称の希求文のモーダルな意味として単なる〈期待〉と〈理想〉を区別した。これらは、対象的内容の時間的限定の有無、主体の意味的なタイプという観点から特徴づけられるモーダルな意味である。単なる〈期待〉を表す文は特定の個人のような個別具体的な主体の事象をとるが、時間的限定はある場合もない場合もある。一方で、〈理想〉を表す文は個別具体的な主体も類としての主体もとるが、時間的限定はない。以上のことを中心に、〈理想〉を表す文と不満のニュアンスとの関係についても述べた。主要な点を表にまとめると、表3ようになる。

表3 三人称の希求文のモーダルな意味

モーダルな意味	対象的内容のタイプ	
単なる〈期待〉	個別具体的な主体	時間的限定のある未実現の具体的な動作・活動 時間的限定のない未実現の抽象的な動作・活動 時間の抽象化された動作・活動
〈理想〉	類の主体 →個別具体的な主体 への転用	時間的限定のない事象

## 5 まとめ

本稿では、二人称の希求文、三人称の希求文について用例観察をもとにモーダルな意味の記述を行った。分析の結果から明らかになったことは4.1、4.2の表2、表3にまとめているためここでは繰り返さないが、本稿の記述ではこれらの希求文にみられるモーダルな意味の広がり的一端を示すことができたと考えている。しかし、以下に挙げる例のように本稿では位置づけられなかったものがあり、十分な考察になっているとは言いがたい。4.2の最後に示した〈価値判断〉に近い意味を表しているように思われる例および脚注に挙げたようなタイプの文の位置づけを含めた、より総合的な考察は今後の課題である。

- ・(新任の女先生、もう来てるんだらうなあ) 外科部長の井原が、九州の大学病院から引き抜いたという女医が、今日赴任してくるのだった。外科で女医はめずらしい。しかも、外科部長自らの引きである。さぞかしやり手なんだらうと思うと、倉沢の心は重くなった。(こうなったら、せめて美人であってほしいもんだ) (LBe9\_00030)
- ・「お父さん、田中さん、銀器の作り方になんか興味ないわよ」景子が諫めた。「そんなことありませんよ。できたら仕事場を見せてもらいたいぐらいです」案外、田中の目が真剣なのに、弘太郎はいささか驚いた。(LBn9\_00234)

## 参考文献

- 奥田靖雄 (1984) 「文のこと」『ことばの研究・序説』、227-240、むぎ書房
- 奥田靖雄 (1986) 「文のさまざま (2) まちのぞみ (上)」『教育国語』85、21-32、むぎ書房
- 奥田靖雄 (1988) 「文の意味的なタイプ—その対象的な内容とモーダルな意味とのからみあい—」  
奥田靖雄著作集刊行委員会 (編) 『奥田靖雄著作集 2 言語学編 (1)』、85-105、むぎ書房
- 奥田靖雄 (1996a) 「文のこと—その分類をめぐって—」奥田靖雄著作集刊行委員会 (編) 『奥田靖雄著作集 2 言語学編 (1)』、292-304、むぎ書房
- 奥田靖雄 (1996b) 「現実・可能・必然 (中) —「していい」と「してもいい」—」奥田靖雄著作集刊行委員会 (編) 『奥田靖雄著作集 2 言語学編 (1)』、248-285、むぎ書房
- 奥田靖雄 (2000) 「現実・可能・必然 (その4) —すればいい、するといい、したらいい—」奥田靖雄著作集刊行委員会 (編) 『奥田靖雄著作集 2 言語学編 (1)』、353-372、むぎ書房
- グループ・ジャマシイ (1998) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 佐藤里美 (1992) 「依頼文—してくれ、してください—」言語学研究会 (編) 『ことばの科学』5、109-174、むぎ書房
- 須田義治 (2009) 「「ものだ」の意味記述」言語学研究会 (編) 『ことばの科学』12、99-138、むぎ書房
- 須田義治 (2010) 『現代日本語のアスペクト論—形態論的なカテゴリーと構文論的なカテゴリーの理論—』ひつじ書房
- 高梨信乃 (2010) 『評価のモダリティ—現代日本語における記述的研究—』くろしお出版
- 高梨信乃 (2020) 「「てほしい」はどのように用いられているか」『関西大学外国語学部紀要』23、43-58、関西大学外国語学部
- 高梨信乃 (2022) 「ないかな：願望表現の包括的記述にむけて」『関西大学外国語学部紀要』27、15-31、関西大学外国語学部
- Narrog ,H. (2009). *Modality in Japanese : The layered structure of the clause and hierarchies of functional categories*. Amsterdam, The Netherlands, John Benjamins Pub Co.
- 仁科明子 (2009) 「「ほうがいい」のモーダルな意味・機能に関する考察」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』27-1、59-72、岡山大学大学院社会文化科学研究科
- 仁田義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会 (2003) 『現代日本語文法 4—第8部 モダリティ—』くろしお出版
- 益岡隆志 (2007) 『日本語モダリティ探究』くろしお出版
- 宮崎和人 (2006) 「まちのぞみ文について—「シタイ」と「シヨウ」—」益岡隆志・野田尚史・森山卓郎編『日本語文法の新地平2 文論編』、41-61、くろしお出版
- 宮崎和人 (2007) 「<まちのぞみ>と<発動>の間」『岡山大学文学部紀要』48、77-89、岡山大学

文学部

宮崎和人 (2020) 「第4章 モダリティ」井島正博編『現代語文法概説』36-54、朝倉書店

村上三寿 (1993) 「命令文—しろ、しなさい—」言語学研究会 (編)『ことばの科学』6、67-115、

むぎ書房

由井紀久子 (1995) 「シテクダサイとシテモライタイとシテホシイ—依頼を表す用法—」『日本語類義表現の文法 (上)』、220-225、くろしお出版

米澤昌子 (2015) 「「てほしい」と「てもらいたい」の使用について：新聞における用例からの一考察」『同志社日本語研究』19、46-58、同志社大学大学院日本語研究会

